

赤松小三郎研究会講演会「幕末政治と赤松小三郎」に参加して

原田義則(3組)

11月26日(日)に関東同窓会赤松小三郎研究会設立10周年を記念して「幕末政治と赤松小三郎」と題する講演会が100名近くの参加者を得て日比谷図書文化館で開催されました。同期の出席は筆者の他、丸山暢久君(4組)の二人でした。

今回の講師は添付したチラシに記されている通り神田外語大学教授の町田明広氏(長野高校卒、61歳)です。町田氏は江戸文政期以降の近世政治史を専門とする研究者とのこと。

講演の冒頭で氏は「誰を中心に据えるかも含めて、様々な後付け情報により歴史研究にはバイアスが懸かり易いのでそうならないよう十分注意している。特に歴史に埋もれた人物の実証研究に際しては、その人物から見えた社会を分析すると共に、その人物研究から見える新たな政治史を構築する必要がある。赤松小三郎は典型的な埋もれた人物で幕末政治史の中で再度位置付けるべく今後、自身の研究に組み込みたい。」とのスタンスを語られ、研究者としての真摯さが伝わった。

講演では赤松小三郎の生い立ちから暗殺までの歴史を説明。町田氏によれば小三郎の行動に関わる一次情報(関係する人物達の手紙等)の他、小三郎から兄への私信なども含めた情報から、彼は遅々として進まない藩政・軍事改革に強い危機感を抱き、軍事書を自費出版したり、藩や幕府に対して革命的とも言える政治改革・軍事改革を提案する建白書を何通も提出し、自分を登用するよう売り込み続けるのだが、封建制度の中では藩や幕府は身分の低かった彼の溢れ出る才能を使えこなせずいたため、小三郎はさぞかし悶々とした時を過ごしたことだろうと思われる、とのこと。

町田氏によれば赤松小三郎はあるべき近代的政治体制の姿を日本で初めて整った形で文章にした「建白七策」から政治(変革)家としての側面が強調されるが、陸軍における軍事戦略家としての側面も再確認したいとのことでした。尚、多くの歴史研究者も赤松小三郎を軍事戦略家と認識しているとのこと。町田氏は赤松小三郎は幕末維新期の方向性を決めた重要人物であるのにも関わらず、歴史に埋没されて極端に過小評価された人物で、その功績は「坂本龍馬に横取りされている」(横取りしたのは勿論本人ではなく、暗殺したのが明治政府の中枢部に近かった人物だった上に、明治時代の政治活動の宣伝道具にされたり、小説の題材にされたためだが)と結論付けました。今回も非常に意義深く、多くのことを考えさせる赤松小三郎講演会でした。

赤松小三郎研究会設立10周年記念

2023年
11月26日
(日)

赤松小三郎講演会のご案内



赤松小三郎 上田市立博物館蔵

講演テーマ「幕末政治と赤松小三郎」

講師 町田明広氏(神田外語大学教授)

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描き、その実現に力を尽くしました。残念ながら、赤松は、1867年(慶応3年)37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。当研究会では、今回、神田外語大学教授で、日本近現代史(明治維新史)が専門の町田明広氏を講師にお迎えし、『幕末政治と赤松小三郎』をテーマにお話を伺います。

日時; 2023年11月26日(日) 講演14:00~16:30(受付開始13:30)
会場; 日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール(裏面案内図ご参照)
参加費; 1,000円(当日会場受付にて申し受けます)
定員; 200名(先着順 お早めにお申し込みください)

講師 町田明広氏(神田外語大学教授)



略歴
昭和37年(1962)生まれ、長野市出身。日本近現代史(明治維新史)研究者、神田外語大学外国語学部教授・日本研究所所長。著書に『幕末文久期の国家政略と薩摩藩』(2010)、『島津久光=幕末政治の焦点』(2009)、『グローバル幕末史』(2015)、『薩長同盟論』(2018)、『新説 坂本龍馬』(2019)、『攘夷の幕末史』(2022)、編著『幕末維新史への招待』(2023)など多数。

講師からひとこと

高校時代まで、長野市に在住していた関係から、非常に近い上田市にも何度か足を運んでおり、かなり以前から赤松小三郎には関心を抱いていました。現在、薩摩藩を中心に慶応期の研究を進めています。赤松の建白書が薩摩藩側史料からも確認できます。ところで、幕末維新史に関心があっても、赤松の存在を知らない方が少なからず存在しています。これは、幕末の最終段階を迎える直前に、赤松が非業の死を遂げているからに他なりません。それに伴い、赤松は余りに過小評価されているのではないのでしょうか。この事実は、非常に残念なことです。今回は、赤松が上田藩士であったことに最大限留意しつつ、その事績の意義や暗殺の背景を確認し、幕末政治史の中で赤松をどのように評価して位置付けるべきなのか、私なりに「赤松小三郎」の実相にアプローチを試みたいと思います。

赤松小三郎研究会事務局 (Eメールで事前のお申し込みをお願いします)
Eメール: kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp
(お名前、ご住所、本講演会をお知りになったきっかけなどご記入ください)
Eメールをご利用できない場合: 電話: 070-2685-2384 (事務局 小山)
(提供いただく個人情報は講演会の案内などの目的で適正に取扱うとともに、目的外利用はいたしません)

お申込は

主催 上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会

2023年11月27日 記